

ふるさと発見

ちがさき丸ごと博物館



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

夏だ! - 茅ヶ崎・青い海 - そして 浜降祭

(知ってるようで知らない浜降祭の神事)



(三之鳥居をくぐる神輿連) (写真提供 (株)ふおと神奈川さん)

海の日の夜明けの西浜海岸には、寒川神社や鶴嶺八幡宮(八幡社)をはじめとする40基ほどの御神輿が参集し、勇壮な中にもおごそかな禊ぎ神事が執り行われます。

「ドッコイ、ドッコイ」、
「カッタ、カッタ」
の音に酔いしれる人々で浜はあふれかえります。

浜降祭に欠かせない神聖な海浜植物-ハマゴウ-

皆さん知っていましたか? ここではハウギ(奉木)と呼ばれるハマゴウは7~8月に青紫色で唇形の花をつける高さ10~50cmほどのクマツヅラ科の常緑小低木です。その昔、茅ヶ崎海岸には今のようなクロマツ林はなく、ハマゴウのような低木が砂浜をほうのように群生していたと考えられます。花や葉、枝には特有の芳香があり、漢方薬としても用いられたほか、虫除けとした地域もあったようです。(写真下左)



170年前の天年間に、南湖の網元であった鈴木孫七が、流失して海中に沈んでいた寒川神社の御神輿を発見して引き上げたおり、このハマゴウを敷き安置したと伝えられています。

その由来から、浜降祭では寒川神社の御神輿の下にはホンダワラが敷き詰められ、その上にハマゴウの枝が挿し並べられています(写真右)。

浜降祭とハマゴウはこのような縁で結びついてきましたが、茅ヶ崎の人々が昔から神様をどれだけ大切にしてきたかを知ることのできる一つの暖かいエピソードでもあります。

ハマゴウなどの小さな海浜植物も、このように茅ヶ崎の重要な歴史の一端を担っています。これからも大切に護っていききたいものです。



(写真2景提供 坂井源一さん)

平成22年 浜降祭列位表 (番号①～⑥は発興の順序 本神輿34社, 子供神輿 4社)

知ってるようで知らない 浜降祭

地区	⑥ 南湖地区 五社					④ 松林・小出地区 九社								② 寒川地区 六社						⑤ 茅ヶ崎地区 六社						③ 鶴嶺地区 四社				① 鶴嶺八幡社四社				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
地区	南湖下町	茶屋町	南湖中町	南湖上町	鳥井戸	香川	甘沼	高田	下赤羽根	上赤羽根	下寺尾	室田	菱沼	小和田	堤	芹沢	一之宮	相模国	岡田	倉見	一之宮	中海岸	十間坂	十間坂	新町	本村	中海岸	萩園	柳島	中島	今宿	円蔵	西久保	矢畑
神社名	住吉神社	茶屋町大神宮	八雲神社	金刀比羅神社	御霊神社	諏訪神社	八幡大神	熊野神社	神明大神	八雲大神	諏訪大社	八王子神社	八王子神社	熊野神社	八坂神社	腰掛神社	寒川神社	菅谷神社	倉見神社	八幡大神	中海岸神社	第六天神社	神明宮	厳島神社	八坂神社	八大竜王神	三島神社	八幡宮	日枝神社	松尾大神	神明大神	日吉神社	本社宮	
御祭神	表筒男命、中筒男命、底筒男命 (子)	天照大神	素戔嗚尊	金刀比羅大権現	鎌倉権五郎景正公、(源義経公)	建御名方命	菅田別命	熊野大神	大日靈貴命、(素戔嗚尊、菅原道真公、福都日神)	素戔嗚尊	建御名方命	八柱命、(大日靈貴命、大山咋命)	熊野久須毘命	熊野三社権現	素戔嗚尊	日本武尊	寒川比古命、寒川比女命	天照大神	天照大神	菅田別命、大日靈貴命、倉福魂命、大山咋命、奥津比古命、奥津比女命、大雀命、菅原天神	天照大神、寒川比古命、寒川比女命	天照大神、寒川比古命、寒川比女命	天照大神、菅田別命、菅原道真公	八大竜王神	菅田別命、(菅田別命、菅原道真公)	菅田別命	大山咋命	大山咋命	大山咋命	大山咋命	菅田別命	菅田別命		

浜降祭の起こりについては、一説では天保9年(1838)、大磯の国府祭(このま)に渡御した寒川神社の神輿が、その帰途に相模川に落ち流失したが、数日後南湖の網元鈴木孫七が海中で発見し丁重に届けたことがきっかけとなり、寒川神社が南湖の浜で禊を行うようになったとある。それ以前にも鶴嶺八幡宮は南湖の浜で、寒川神社も河口で別々に禊を行っていた。現在のように寒川神社と茅ヶ崎が共同で開催するようになったのは明治7年からである。昭和44年には茅ヶ崎海岸浜降祭保存会が発足し、茅ヶ崎海岸浜降祭実行委員会が設置され浜降祭を開催しているが、寒川神社の浜の祭場の準備(神輿の座-ハマゴウ)については代々鈴木家が「御旅所神主」として一切を執り行っている。開催日は明治9年に6月30日から7月15日に変わり平成9年から海の日に変わった。昭和53年には神奈川県無形民俗文化財に指定され、57年には「かながわの民俗芸能50選」に選ばれる。それぞれの神輿が並ぶ順序や神社はどの神を祀っているのかは左の表に記すとおりである。(神様や、その読み方についてはわかりにくいのですが、とても奥深いものがありますので、読者の皆様もぜひ調べてみてください。)



祭場の風景



砂浜を練り歩く神輿



渚を渡る神輿

(上記写真3景提供 松村康史氏 キャプションは当方にて記述)

私のふるさとの祭りーちゃんちゃん祭り（奈良県）ー

浜降祭の暁に聞こえてくる相州神輿の掛け声「どっこい・どっこい」を耳にすると子供の頃に見慣れた 大和（おおやまと）神社の「ちゃんちゃん祭り」の情景が目に浮かんできます。

大和神社(旧官幣大社)は奈良県天理市にあり、日本書紀によれば第10代崇神天皇の頃、天照大神と地主神として日本大国魂大神(やまとおおくにたまのおおかみ)とが宮中で祀られていましたが、疫病や世の乱れが続くため、神威を恐れた天皇により両大神は宮中外に移され、現在、天照大神は伊勢神宮に、日本大国魂大神はこの大和神社に祀られています。

通称「ちゃんちゃん祭り」は大和神社のお祭りで、近在9郷の氏子らの奉祀で3月23日から4月2日にかけて行われ、4月1日には「お渡り(神幸祭)」が行われます。神輿を中心に200人程の行列を組み、本社から1kmほどのところにある「お旅所(大和稚宮神社)」迄、山の辺の道周辺を渡御し、神事のあと、本社に還御します。古くは勅使参向のお祭りだったようです。「ちゃんちゃん」の由来はお渡りで打ち鳴らす鉦の音に発すると言われており、私が子供の頃には巡行する道の周辺にレンゲ畑が広がる大和の春の風物詩でした。



観光スポットから外れた神社ですが山の辺を歩かれる時には立ち寄られては如何でしょうか。(池上 升也)

(写真:お渡り 大和神社HPより 転載許可をいただきました)

.....郷土の街 茅ヶ崎ゆかりの読み物紹介コーナー.....

◆「湘南 海光る窓」 著者:城山三郎 出版社:文藝春秋(文春文庫)

「海の見える家に住みたい」をかなえ茅ヶ崎に移り住んで50年。湘南の四季折々の自然や市井の人々など愛情を込めて描いたエッセー。茅ヶ崎にも飽きて他に移り住もうとした著者は、結局最後まで茅ヶ崎に住むこととなった。

◆「湘南に愛をこめて」 著書:加山雄三 出版社:株式会社ファンハウス

作曲家、歌手、俳優、ヨットにスキーと多才で名声を一身に浴びる著者。共同出資したホテルの経営破たんによる多額の借金を背負う試練も克服。破天荒な生活も送ろうとすれば送れる著者の、妻を愛し家族を何よりも大切にする姿は深い共感を呼ぶ。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館て何？

本市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、茅ヶ崎市らしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を整理して広く市民に周知する一方、それぞれを関連づけて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、本市を改めて知り、本市を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくこととなります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

訂正 中開き「浜降祭列位表」の①鶴嶺八幡社四社32の神明大神の御祭神に「貴」が抜けていました。読みはオオヒルメノムチノミコトです、お詫びして訂正します

編集 編集員の高橋を中心として、池上、川合、富永の各氏と話し合い「知ってるようで知らない浜降祭の神事」をテーマにしました。「浜下りの神の禊」は文政6～7年(1823)頃に遡る、資料を読み解く程に深みにはまり、收拾がつかず、とうとう富永さんに丸投げの体。資料提供してくださった岡崎孝夫さん、齊藤溢子さん、写真提供の中海岸在住・松村康史さん、矢畑・榎ふおと神奈川さん、そして大和神社さんに御礼申し上げます。海浜植物をご教示いただいた東海大学の藤吉正明先生の「ハマゴウ」に寄せる神への想いも大変ロマンを感じました。次号の担当は池上 升也さん、乞うご期待。(4号担当、高橋正純)

発行・編集 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館

〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-1-1 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部 社会教育課文化財保護担当

Tel 0467-82-1111 内線 3342 E-mail: shakaikyoku@city.chigasaki.kanagawa.jp